

地域・民衆ジャーナリズム賞（旧「むのたけじ地域・民衆ジャーナリズム賞」）実行委員会より、下記「関係者のみなさま。応募者のみなさま」が届きました。

今後の「地域・民衆ジャーナリズム賞」については、「むの氏の障がい者女性への差別発言について重く受け止め、向き合い」、共同代表の見解をもとに、「むのたけじの冠をとる」こととした経緯と、実行委員会での討議内容とその結論が書かれています。

特に③の「**以下私たち実行委員会の討議内容と今後についての提案です**」をご覧ください。

このことに対する私たちの思いを「関係者のみなさま。応募者のみなさま」について思うこと ―むの氏の障がい者女性への差別発言を、差別と受け止めているのでしょうか―に書きましたので、一緒にご覧ください。

関係者のみなさま。応募者のみなさま

実行委員会 2024年5月15日

「むのたけじ地域・民衆ジャーナリズム賞」第5回で終了と新たな「地域・民衆ジャーナリズム2025」のスタートについて報告と提案をさせていただきます。

Ⅰ 経緯

① 2023年6月、第5回受賞者の団体から『むのたけじ氏の過去の差別発言引用とその後の対応』について、この40年間問題を抱え、苦しんでいた当事者がいたことが分かり、当時の状況を調査してみました。つきましてはこの問題について発掘した資料を送ります。この問題についてこの賞の共同代表の皆さまにどう考えるか見解をお聞きしたい。』という質問状が寄せられました。

その依頼文と詳しい資料は大変重要だと思しますので別紙①として合本してあります。どうぞみなさま長文となりますがご覧ください。

② 共同代表と事務局スタッフはこの間何度となく議論を重ね、また、提起された当事者のみなさんやいくつかの「差別問題」に取組み、過去この賞で受賞された団体にもお話をうかがいました。

「この問題にきちんと向き合い、今後この賞について方向を出してゆく」ために、長い時間がかかってしまいましたことをおわび申し上げます。

その結果以下2、3頁の②の2回にわたる共同代表の見解をご覧ください。

③ その結論として共同代表の方は、その任を辞退されることになりました。私達はこれまでの共同代表の方々のご尽力に深く感謝するとともに、この問題が提起される前に応募された方々の作品については、これまで第一次選考を行ってきた実行委員会スタッフによって選考させていただき、その上で6月15日「授与の集い」を行うことに致しました。そして今後の「地域・民衆ジャーナリズム賞」については、①今回の問題を重く受け止め、向き合い、共同代表

の見解をもとに「むのたけじの冠をとる」②共同代表制をなくし、最終選考者として新たに各界人をお願いする ③今までの「地域からの民衆ジャーナリズム発掘に光をあてること」や、従来の「たいまつ精神」は引き継ぎ『地域・民衆ジャーナリズム2025』として2024年9月に再スタート、新体制で作品募集を開始することといたしました。

以下私たち実行委員会の討議内容と今後についての提案です。

実行委員会スタッフも、第5回受賞者から送られてきた資料の中の、北海道新聞労働組合集会でのむのさんの発言に、あのむのさんがこんなひどい発言をしていたのかと驚きました。しかし冷静に読んでみると、これはむのさん自身の発言ではなく、施設婦長の発言の引用・紹介である。だがむのさんが独特の秋田訛りでまくし立てているため、むのさん自身がそのように考えているように受け取られてしまいます。むのさん自身が婦長の発言をどのようにとらえていたのか確認する必要がありましたが、井上さん、松井さんの追及は残念ながらそこまで届かず、またむのさんのその後の対応の不備からむのさんの真意は不明のまま、松井さんは「むのさんの差別発言」と断じました。

むのさんは、その後の婦民新聞のインタビューでは反省の弁も述べ、またほかの講演や著作で差別発言を続けていた形跡はありません。むのさんの発言は正確には「差別発言の引用」であり、「差別発言」と断定するのは無理があるのではないかという意見もありました。

しかし、「こんなひどい発言があった」との説明抜きで婦長発言を紹介したのは、道新組合記者たちに差別感情をそのまま流布した形になるのは変わりはありません。またこの問題を抱え苦しんでいる当事者のみなさんに今後も向き合い、今後の課題としてゆくが事件の責任を取るため、共同代表の見解を受け賞から故人の名前を冠から外すこととしました。

に

II 共同代表の見解（省略） ※上記に4掲載

III 実行委員会から今後についての提案

「地域・民衆ジャーナリズム賞2024」についてのお願い

「むのたけじ地域・民衆ジャーナリズム賞」は、2023年12月「共同代表見解」をもって第5回で終了となりました。しかし23年中には応募作品がすでに多数寄せられており、また「地域・民衆ジャーナリズム」を発掘、顕彰する意義は残されているため、今回は「地域・民衆ジャーナリズム賞2024」と名称を変更し、今後も末尾に毎年西暦年号を付しての賞として存続することといたします。応募された方々及び関係者のご了解をお願い申し上げます。

私たちは、今回のむのさんの「差別発言」問題を機に、改めて障がい者差別問題に今後も真摯に向き合うとともに、むのたけじさんが提唱した「たいまつ精神」も継承していく所存です。「共同声明」を発表された4人の世話人の方々には、初回から賞の性格を形づける選考をしていただき、大変感謝いたしております。

次回は第7回とはせず、「地域・民衆ジャーナリズム賞2025」として再スタートいたします。9月には改めて発足集会を行うとともに、応募作品の募集を開始いたします。以上、皆様のご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

● 「むの賞」終了について

「むの賞」は 2023 年 12 月「共同代表見解」をもって、第 5 回で終了とする。この間（'23.6.7～'24.3.31）の差別と向き合い苦闘し議論しあらためて「民衆ジャーナリズム」を地域から発掘するための検証作業を今後に生かしてゆく。

註 ※は編集によるものです。